

## 静岡県水産・海洋技術研究所研究報告掲載規程

### 1 投稿者

投稿者は、静岡県水産・海洋技術研究所職員及び職員であった者（旧水産技術研究所、水産試験場を含む）とする。前記の者以外の共著者を含むことは差し支えない。

### 2 原稿の取扱い

- (1) 掲載原稿は編集委員会で決定する。
- (2) 著者は、原稿をその業績の属する機関の承認を受けた後、各編集委員へ電子データにより提出する。各編集委員への初稿の提出期限は6月30日とする。
- (3) 第一校閲者及び第二校閲者が原稿を校閲し、編集委員会が審査し、承認の上、受理する。
- (4) 審査の結果、修正を要すると判断された原稿は、その理由を校閲結果に記載し、著者に返送し、訂正を求める。校閲結果に対する回答及び修正原稿は、編集委員会から指示された期限までに提出する。期限までに提出がない場合には、取り下げたものとみなすことがある。
- (5) 印刷の校正は第2校正まで著者が行った後、第3校正以降は事務局が行う。

### 3 原稿の構成

#### (1) 原著

和文の表題、著者名、要旨、キーワード、本文、文献の順とし、末尾の別ページに英文で表題、著者名、要旨、キーワードを記載する。

要旨については、研究の目的、方法、結果、考察を500字以内に簡潔にまとめる。

本文の構成は、原則として、まえがき（見出しは付けない）、材料及び方法、結果、考察の順とする。

英文要旨は和文要旨同様の構成とし、200語以内で簡潔にまとめる。校正は事務局が外部委託により行う。

#### (2) 総説 Review

和文の表題、著者名、要旨、キーワード、本文、文献の順とし、末尾の別ページに英文で表題、著者名、要旨、キーワードを記載する。

本文の構成は自由とし、原稿の書き方については本規程に従うものとする。

英文要旨は原著と同様とする。

#### (3) 短報 Short paper

和文の表題、著者名、要旨、キーワード、本文、文献の順とし、末尾の別ページに英文で表題、著者名、要旨、キーワードを記載する。

本文は、方法、結果、考察などの項目に分けて記述する必要はなく、英文ページを除き、刷り上がり4頁以内とする。

英文要旨は原著と同様とする。

#### (4) 資料 Material

和文の表題、著者名、要旨、キーワード、本文、文献の順とし、末尾の別ページに英文で表題、著者名、要旨、キーワードを記載する。本文に考察は記述しない。

英文要旨については原著と同様とする。

#### (5) 抄録

全体の概要が分かるように、図表を用いず 600字程度にまとめる。

英文で記載する場合は、著者の責任で完全な英文とする。まとめ方については、原著の英文要旨に準ずる。

#### (6) 記事

対象とする研究会、学会等は次のとおりとし、会の名称、期日、場所、発表の表題、所属、発表者名を記載する。

ア 水産研究発表会

イ 水産試験研究機関技術連絡協議会

ウ 日本水産学会等の学会（支部例会等を含む）

エ 水産庁、全国水産試験場長会等が主催する全国会議及びブロック会議

オ 上記ア～エと同等の研究会等

### 4 原稿の書き方

#### (1) 様式

提出原稿は、A4版縦置き、横書きとする。1行文字数は26文字、1頁行数は25行とし、ページ番号、ページ毎の行番号を記載する。

1ページ目には、表題、著者名、要旨、キーワード、ランニングタイトルを記載する。また、脚注には業績番号、所属を記載する。

2ページ目以降に本文、文献を記載する。謝辞が必要であれば、本文と文献の間に記載する。

図表は本文とは別ページとし、表題及び説明文は

図表と同じページに記載する。

英文の表題、著者名、キーワードは最後に別のページに記載する。

1ページ目、本文、文献、図表、英文ページそれぞれの電子ファイル（Word 文書形式、Microsoft office Excel ブック形式等）とともに、上記の順に同一ファイルにまとめたPDF形式のファイルを提出する。

日本語の表記方法は、現代仮名遣い及び常用漢字を使用する。

なお、句読点の記号は「,」,「。」を使用する。

## (2) 書体

基本書体は明朝体とし、機種依存文字を用いてはならない。

ASCIIコードで表現できる英数字(アルファベット、スラッシュ等)は半角で、その他(カタカナ、機種に依存しない記号類等)は全角を使用する。ただし、読点の「,」は全角とする。

大見出し(材料及び方法、結果、考察等)は、行の中央にゴシック体で記載する。中見出しは、ゴシック体、左寄せ(1文字開け)とし、本文の追い込みはしない。小見出しは明朝体とし、見出し番号(1., 2., …)を付ける。

図中の文字、図表の表題及び説明文はすべてゴシック体とする。表中の文字は明朝体、英数字はCenturyとする。

## (3) 表題及び著者名

### ア 表題

表題は、論文の内容を簡潔に表すようにする。主題、副題は別行に書く。

継続報文の場合には主題の後にローマ数字で「- I」のように表記する。

学名は原則として和文表題には入れずに、英文表題に入れる。

英文表題の字体は、固有名詞等を除き、文頭のみ大文字とする。

### イ 著者名

和文で連名のときは「・」で連ねる。

英文の様式は、名及び姓ともに頭文字を大文字、後の文字を小文字にし、3名以上連名のときは「,」で連ね、最後の名は「and」でつなぐ。

### 例)

2名の場合 静岡太郎・駿河次郎  
Taro Shizuoka and Jiro Suruga

3名の場合 静岡太郎・駿河次郎・伊豆三郎

Taro Shizuoka, Jiro Suruga and Saburo Izu

## (4) キーワード及びランニングタイトル

原著、総説、短報及び資料には、キーワードとして内容に関係の深い用語を3~8語選ぶ。和名及び学名は各々異なるキーワードとして扱う。和文ページは日本語とし、英文ページには対応する英語を記載する。

ランニングタイトルは、表題文字数のおおむね半分程度で15文字以内とする。

## (5) 業績番号及び所属

業績番号を脚注に記す。

所属については、著者名に上付きで「<sup>\*1</sup>, <sup>\*2</sup>」のように付し、脚注に記載する。なお、論文受理時の所属が異動等により異なる場合は、「,」の後に現所属として併記する。共著者の現所属については任意とする。

### 例)

(業績番号)

静岡県水産・海洋技術研究所(本所)業績第 一 号  
(所属)

<sup>\*1</sup> 静岡県水産・海洋技術研究所開発加工科

<sup>\*2</sup> 静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科、  
現経済産業部水産振興課

## (6) 図表

### ア 図

原図は鮮明なものを用い、原則としてA4版用紙に納める。なお、写真は図として扱う。グラフは縦軸と横軸のみとし、上及び右の枠線はつけない。

図中の文字の大きさは変更できないので、縮小後に適切な大きさになるよう配慮して作成する。

### イ 表

一番上の線は二重線とし、項目以外の線はなるべく省略する。原則として縦の罫線は用いない。

### ウ 図表の表題及び説明文

(ア) 図表の表題及び説明文は和文とし、内容がよく分かるよう簡潔に書く。

(イ) 図表には必要に応じて英文表題及び説明文をつけることができる。この場合、英文の下

に和文を配置する。

(ウ) 図の説明文は図の下側に記し、和文では「図2 ……」, 英文では「Fig. 2. ……」とする。

(エ) 表の説明文は表の上側に記し、和文では「表1 ……」, 英文では「Table 1. ……」とする。

(オ) 表1, 図2などを更に分ける場合には, 「表1-2」, 「図2-2」のように記す。

(7) 単位及び記号等

単位の記述は、国際単位系(SI)を尊重し、かつ、量を表す記号(容積を表す*V*, 面積を表す*S*など)はイタリック体, 単位記号はローマン体を原則とする。略記する場合は複数でも*s*をつけない。その他各種の記号を用いるときは明確な説明をつける。

例)

全長(*L*)及び魚体重(*W*)を測定し、肥満度(*CF*)を次式で算出した。

$$CF=W/L^3 \times 10^3$$

例)

長さ・面積・容積: Å, pm, nm(*m*は不可),  $\mu$ m(*m*は不可), mm, cm, m, km, mm<sup>2</sup>, cm<sup>2</sup>, m<sup>2</sup>,  $\mu$ L, mL, kL, mm<sup>3</sup>, cm<sup>3</sup>, m<sup>3</sup>

質量: pg, ng,  $\mu$ g, mg, kg, t, Da, kDa

時間: s, min, h, あるいは秒, 分, 時間, ただし時刻は「00:00」

温度: °C, K(°Kは不可)

物質の量: pmol, nmol,  $\mu$ mol, mol

濃度: pM, nM, mM, M, N, % あるいはpercent, ppm,  $\mu$ g/kg, mg/100mL, mg/100g, (mg%は不可), 塩分は単位なし

力: dyn, N(ニュートン), gw, kgw

仕事・エネルギー・熱量: erg, eV, J(ジュール), cal, kcal

圧力: Pa(パスカル), mmHg, atm, bar

電気: Ω, V, W, mA, A, Hz

光: cd, lx, lm, cd/m<sup>2</sup>

音: Hz, kHz, MHz,  $\mu$ bar, dB

速度: cm/s, m/s, kt(ノット), rad/s

放射能: dpm, cps, cpm, mBq, Bq, Gy, kGy, mSv, Sv, R, kR

回転: rpm, cycle

その他: eq,  $\times$ g, S(Svedberg)

化学関係の記号は次のように字体を区別する。

イタリック体とするもの: *O*-, *m*-, *p*-, *N*-, *O*-, *S*-, *n*-, *d*-, *l*-, *prim*-, *sec*-, *tert*-, *cis*-, *trans*-  
ローマン体とするもの: pH, Rf, <sup>14</sup>C, Cl<sup>-</sup>, SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>, Fe<sup>3+</sup>, bis-, iso-, homo-

スモールキャピタルとするもの: D-, L-, DL-,

上記はすべて、原稿の書き方、単位および記号(日本水産学会誌(2012), 第78巻, 第3号, 582-583.)に準ずる。

位置: 35° 20' N, 135° 15' E

測点: St (Stationの略)

年号: 西暦を用いる。

(8) 生物名

ア 和文原稿中(表題を除く)では標準和名をカタカナで書き、続けて学名をイタリック体で入れる。ただし、いわし旋網、かつお節、かじき類などのような標準和名を示さない一般的な名前の場合にはカタカナを用いない。

イ 英文原稿中では、生物名の次に学名を入れる。微生物名などはそのまま学名を用いる。原則として命名者名は省くが、特に入れる場合は略記せずにローマン体で入れる(頭文字を大文字、後は小文字)。また、属名や種名を最初から略記してはならない。

ウ 特に必要な場合を除いて、学名を重複して使用しない。必要な場合、原則として属名を頭文字1文字とピリオドで表す。

エ 学名の使用については国際動物命名規約による。

(9) 化学名

化学名は、和文原稿中では国際化学物質命名法に従い、漢字若しくはカタカナで記載し、原語を用いる必要のあるときは小文字で書く。化合物の略語は国際慣用に従い、必要なときは本文又は脚注でその旨を注記する。

酵素名は、International Union of Biochemistryで示した常用名を用い、本文中に最初にその名を述べるときに酵素番号も明記する。酵素名は、DNA及びアイソザイムの表記以外には原則として略記しないが、酵素名中の基質を示す部分は、その化合物について一般に用いられている略号がある場合には用いて差し支えない。

例)

アルコールデヒドロゲナーゼ →ADHは不可。

乳酸デヒドロゲナーゼ 1 (アイソザイム)

→LDH-1は可。

グルコース-6-リン酸デヒドロゲナーゼ

→glc・6・Pデヒドロゲナーゼは可。

アデノシントリホスファターゼ

→ATPアーゼは可

(10) 人名

本文中の人名は、姓のみを記し、名は省く。欧文つづりのときには頭文字を大文字、後を小文字にする。

(11) 和文原稿中の欧文つづりの外来語

人名、地名、ドイツ語の名詞、固有の商品名などを除き小文字で記載する。同一報文中で同一物名について和洋語を混用してはならない。

(12) 商品名

できるだけ用いない。特に必要のある場合は括弧書きとする。

(13) 脚注

脚注は、1箇所の場合は「△△△\*」、複数箇所の場合は「△△△<sup>1)</sup>」, 「△△△<sup>2)</sup>」などのように指定し、関連頁の下段に入れる。

(14) 文献

ア 文献は印刷物であって一般的に入手可能なものとする。ホームページ、学会講演要旨、修士論文、卒業論文、新聞記事等は脚注(前項)として表示する。

イ 本文引用箇所“上付き”で山本<sup>1, 2), 4~7)</sup>, 加藤<sup>8, 11)</sup>のように文献番号を入れ、年号は入れない。著者が2名の場合は姓を「・」で連記し、3名以上の場合には筆頭著者の姓に「ら」または「*et al.*」を付して記載する。引用箇所の直後に句読点が続く場合は、句読点の前に文献番号を入れる。

ウ 著者が機関である文献を引用する場合には、機関名を省略しない。

エ 論文の末尾に、引用順に文献番号を付して、以下の形式で一括リストを記載する。

(ア) 同じ研究学会誌(書)などが並ぶときも、同誌(同書)、(*ibid.*)と略さない。

(イ) 同一著者名を連続して引用する場合でも「—」のように略してはならない。

(ウ) 著者名の表記

姓 名の順に表記する。

日本語文献の場合、姓と名の間にスペースを設けず、姓名の省略はしない。著者を列記

する場合は、「・」で続ける。

外国語文献の場合、姓と名の間に半角スペースを設け、名はイニシャルのみとする。著者を列記する場合は、「,」で続ける。

例)

1)Yoshikawa M. (1999): . . . . .

2)Yasui M., Atsumi S. (2000): . . . . .

(エ) 雑誌は原則として巻のみをゴシック体で記す。巻が無く号だけの雑誌の場合は号をゴシック体とする。

(オ) 「:」, 「,」, 「.」は半角とし後に半角スペースをいれる。

(カ) 引用の形式

a 論文の場合

番号)著者名(年号): 表題. 雑誌名, 巻(号), 初頁~終頁.

例)

1)二村和視・岡本一利・高瀬進(2007): 駿河湾深層水・光量および水温がサガラメ *Eisenia arborea*(Phaeophyceae) 幼体の生長に及ぼす影響. 日本水産学会誌, 55(2), 199~204.

2)Koizumi K., Hiratsuka S. (2009): Fatty acid compositions in muscles of wild and cultured ocellate puffer *Takifugu rubripes*. *Fish. Sci.*, 75(5), 1323~1328.

b 単行本の場合

(a) 全体又は数箇所を引用した場合

番号)著者名(年号): 書名, 発行所, 発行地, 総頁数pp.

例)

1)田中義麿(1954): 科学論文の書き方, 裳華房, 東京, 372pp.

2)Hilditch T. P. (1956): The chemical constitution of natural fats, Wiley, New York, 664pp.

3)クロー J. F. (1989): 基礎集団遺伝学 (安田徳一訳), 培風館, 東京, 252pp.

(b) 特定箇所を引用した場合

番号)著者名(年号): 書名, 発行所, 発行地, 引用初頁~終頁.

例)

1)上野景平(1965): キレート滴定法, 南江

- 堂，東京，366～368.
- 2) Smith S. (1957): The physiology of fishes, Academic Press, New York, 323～359.
- (c) 分担共著者で，特定箇所を引用した場合  
番号) 著者名(年号): 引用箇所の章名等.  
書名(編者)，発行所，発行地，引用  
初頁～終頁.
- 例)
- 1) 鈴木三郎(1990): 魚介類の色素. 水産食品学(佐藤一郎編)，西京大学出版会，101～122.
- c 報告書(巻号のない)の場合
- (a) 全体又は数箇所を引用した場合  
番号) 著者(あるいは機関)名(年号): 書名.  
引用総頁数pp.
- 例)
- 1) 静岡県水産試験場(2009): 平成19年度漁況海況予報関係事業結果報告書. 46pp.
- (b) 特定箇所を引用した場合  
番号) 著者(あるいは機関)名(年号): 表題.  
書名，初頁～終頁.
- 例)
- 1) 御宿昭彦(1994): 放流後の追跡. 平成5年度重要甲殻類栽培管理手法開発調査報告書ガザミ，静岡県水産試験場浜名湖分場，13～37.
- d 複数機関の報告を合本してある報告書(通しページがない)の場合
- (a) 1機関の全体又は数箇所を引用した場合  
番号) 著者(あるいは機関)名(年号): 表題.  
書名，初頁～終頁.
- 例)
- 1) 静岡県水産試験場伊豆分場(2004): 静岡県メガイアワビ. 平成15年度資源増大技術開発事業報告書地先型定着性種(暖水域グループ)，神奈川県・新潟県・福井県・静岡県・山口県・徳島県・福岡県・鹿児島県・沖縄県，静1～静35.
- (b) 特定箇所を引用した場合  
番号) 著者(あるいは機関)名(年号): 表題.  
書名，初頁～終頁.
- 例)
- 1) 静岡県水産試験場伊豆分場(2004): 放流技術開発. 平成15年度資源増大技術開発事業報告書地先型定着性種(暖水域グループ)，神奈川県・新潟県・福井県・静岡県・山口県・徳島県・福岡県・鹿児島県・沖縄県，静20～静28.
- e 特許の場合  
引用は特許出願公開番号(特開)または特許番号(特許)を取得したもののみ可能とし，出願番号(特願)は引用文献とはしない.  
番号) 発明者(年号): 発明の名称，公開特許番号または特許公報の番号.
- 例)
- 1) 二村和視・岡本一利(2006): 海藻類の種苗生産方法，特開2006-262823号.
- f その他の印刷物の場合  
番号) 著者名(年号): 表題，雑誌名(発行機関)，巻(号)，初頁～終頁.
- 例)
- 1) 岡英夫(1991): ウナギは焼くとどのくらい縮むか，はまな(静岡県水産試験場浜名湖分場)，364，1～3.
- 2) 沼知健一(1995): アユの生活を遺伝子で追跡する その1，海のはくぶつかん(東海大学海洋科学博物館)，27(3)，2～3.
- (オ) 雑誌名の記載  
和文雑誌名は略記しない。  
外国雑誌名はイタリック体で記載し，略記を可とする。なお，省略方法は日本水産学会誌の方法に準ずる。
- (15) その他  
ここに規定されていない事項については，日本水産学会誌の規程に準じるものとする。
- 5 完成原稿の提出  
完成原稿は電子ファイルにより編集担当科長まで提出する。提出する電子ファイルは以下のとおりとする。
- (1) 本文及び表  
本文は「リッチ テキスト形式」で保存する。書体等は「4 原稿の書き方」に従い，改行は文章の段落の区切りによりのみ行う。英文ページに英文要旨を記入する。  
表は，ワープロソフトで作成した場合は「Word 文書」形式と「リッチ テキスト」形式で保存する。表計算ソフトで作成した場合は，「Microsoft Office

Excelブック」形式と「テキスト(タブ区切り)」形式で保存する。いずれの場合もひとつのファイルにはひとつの表を保存し、ファイル名は「〇〇〇(表題)ー表〇」とする。

(2) 図

図は電子データで提出する。

(3) 参考レイアウト

印刷時を想定した、本文2段組(1段26字×45行)で図表を所定の位置と大きさに組み込んだ参考レイアウトをPDFファイルで提出する。

附 則

- 1 平成20年4月1日施行
- 2 平成25年4月1日施行
- 3 令和2年4月1日施行